

感動！ 見たぞ！ メダカの卵をうむ瞬間！！

ねらい：メダカの卵がどのように成長していくかを観察する学習があります。しかし、卵をうむ瞬間を見ることはなかなかできません。授業中に卵をうむ瞬間を子どもたちに見せるコツを紹介します。生命の誕生の瞬間に子どもたちが感動を受けることは間違えありません。

1. 前日の準備

- (1) メダカをオスとメスのよく太っているものを別々の水槽に入れておきます。
一対の水槽にオスとメスはそれぞれ2～5匹程度でよい。一つの水槽で観察できるのは、8人程度と考えるとよい。
- (2) それぞれの水槽に暗幕をかけておきます。暗幕をかけた状態で、一晩放置しておきます。

2. 当日

- (1) テーブルの上に台を置き、その上にオスの入った水槽を載せる。
児童の目線より水槽を上の方に置くと、メダカは上から人にのぞき込まれ、安心して泳げない。
- (2) テーブルから50cm程度離れた場所に児童用の椅子を置くとよい。(児童がテーブルにさわっていると、震動でメダカがおどろく。)

準備

メダカ（オス、メス数匹）、あみ、水槽2つ、暗幕になる布

- (3) 暗幕がかかった水槽の暗幕を取る。
- (4) オスの入った水槽の中にメスを入れる。
- (5) はやいときで15分、遅い時で50分程度の中に産卵・放精が行われる。
- (6) 環境の変化にメダカが落ち着かないと受精に時間がかかる。
児童には静かに見守るように注意が必要になる。

3. メダカの産卵・放精の様子

- (1) メダカが環境に慣れてくると、オスがメスを追いかけるようになる。
- (2) オスがメスの前に来て、メスにからだを見せるように動く。
- (3) メスがその場で止まる。
- (4) オスがメスのうしろにまわりこみ、尾びれからメスに近づいて行き、尾びれと背びれでメスを挟み込む。
- (5) メダカが小刻みにからだをふるえさせる。
- (6) オスはメスから離れ、メスはその場に残る。



ワンポイント！

オスはメスを挟み込むために、尻びれが大きかったり、背びれに切れ込みが入っていたりします。

卵が何個うまれるのかを数えると、思ったよりたくさんの卵がうまれるので、子どもたちもびっくりします。

自分の目の前で生まれた卵なので、子どもは興味をもって卵の成長を観察できますし、誕生したメダカを大切にします。